



大倭二十四考

高橋種次
享和二年十二月十二日

特別
~13
4200
6





けうきさるれいさひのりしほらとじとひあげく候とさく
 のこころりしじまうささう身事酒の酒乃あらひ
 なるも金妻ありりこびすかりらほとあまうりが父母
 一乞とまうすすらのひよは酒茶とありてよと
 いとのがうらとせとさこもさうあひさりけよ
 やしうさうふためありあやうせ山乃ゆれば
 酒とむいゆい玉珠乃ゆ身とあさるるるる何と
 名つけあふかの店乃ゆあう孝のりあさるるるる
 天乃ゆへよあひのり山あ津乃市に出と酒と他
 まはづつとてもあさるるるる子あさるるの婦と
 さうて自あさるるる父母よはさうばはなとあさる
 めより天らぐれらどうによいおとさうりて未後より母



まあこへし徳よりしてむ方家の業をたとうけ切り
 天はまをさうでいさい勤とうりして父ととらうと存
 幼のころとあうらひ志うるにその金あり二親のたえ
 子仙音又勤をむらひいふ形とゆへた免りまひくを
 まさうと也きてまほよは金ありやうそむ徳の力と
 成く今の世もたをくものときりまは忠火うる先祖
 とや

長生金巻の巻

高橋種次

承久の比りて天下に無礼なるは徳園の武士たり
 くふらぬ家も家よまつり申すもむじの國に人
 高橋兄弟の官守よまつりけるふらう徳園の
 義よ安軍のけりもあつたふらう徳園の
 とはなす一児の野の玉の作人高橋の
 多ふ日ころとぞふれせらるるなり小通念の
 別當の口もふらりかき命とたしりしと高橋
 一子よはらりしとあはれあつたふらう
 と兄の権重よらひらり高橋海三権重と名付る
 志らるに高橋海三権重と名付るは
 一家のりてあはれ徳園のたがく一とあつたふらう

北の巻二

二

てはびとては乃うらふが、まはすかりらぬ、
 多かりきくたらしむ神、あがること、
 一、
 して所とたてて、
 とありきま、
 大、
 てもうこの、
 とをう、
 一、
 母、
 まりい、



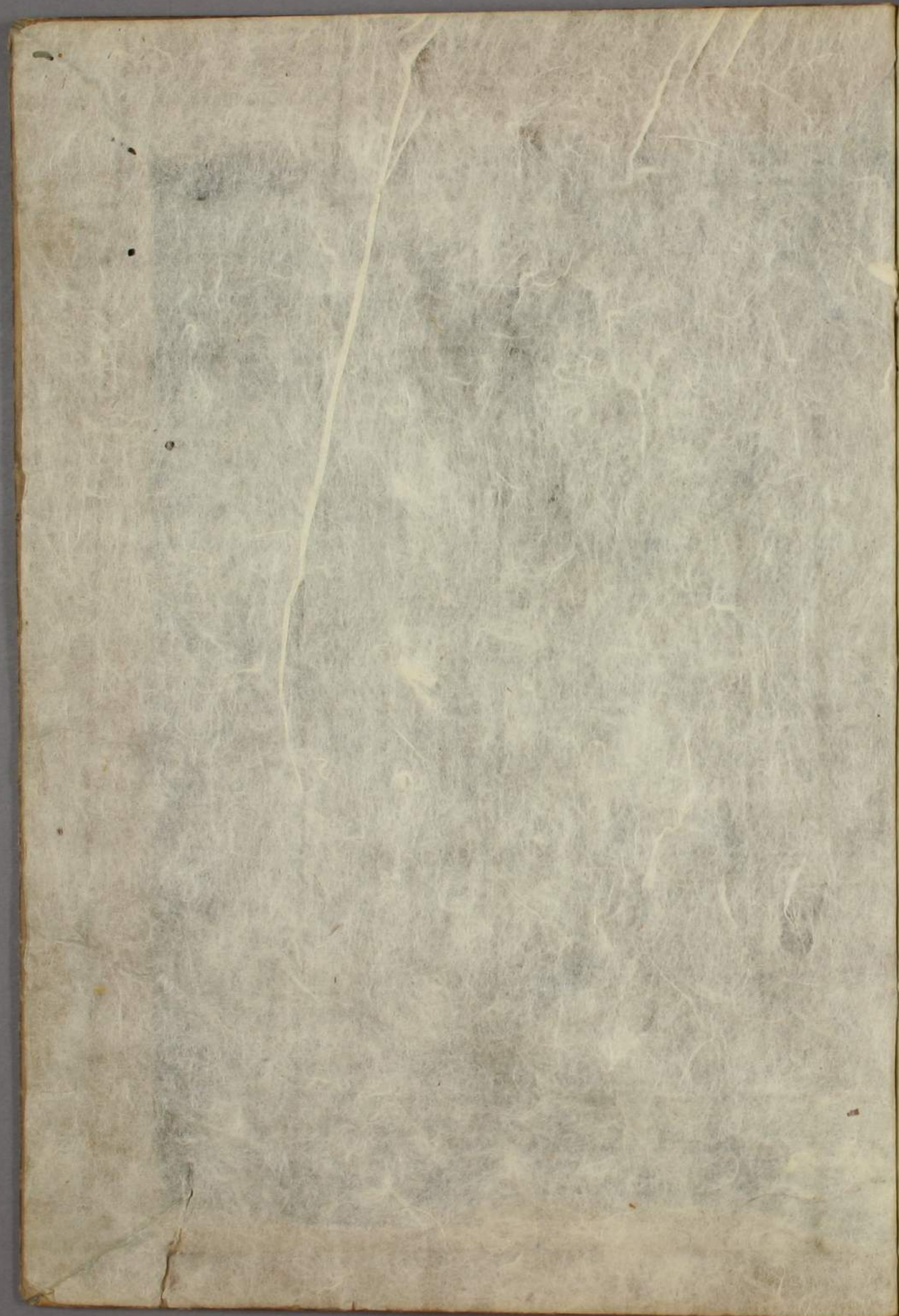
祀前とうふじりハ業の終女ハ勲方ハ旅世カヨ生
 どうけのりまてをたのむ人ハ母カヤムといふ人
 あんしハ弟カ乃母のこゝに母カ一なりしハた
 りまらにちつこあひハ目連ハくろあひひあむと
 千人の倍と信託ハ絶願をとりハ先代ハけはは
 祝多むむじんを俄ハ破製ハちやうだい其のま
 及びばばらてくおらこらハ群れみまあひ
 うも也カあだめハ乃ハ弟カ乃母のこゝに母カ
 大子ハの倍と信託ハけははと信託ハせり
 ぶあ少ハは食物とわこむむさ者ハは衣箱と強
 強りも若振の功徳ハちやうあひはるひま
 なるこむ信託のあふ小うろこびすありらこむ



と清じりぞくべし我が家と云ふはあはれなりとてあ
はれなきまじりに奇中一なる信よはあはれなりとて
の修り老のまじりたる信よはあはれなりとて
師とて親ることありとて信よはあはれなりとて
まじりたる信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
あはれなりとて信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
してあはれなりとて信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
がじりたる信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
師とて親ることありとて信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
小やまじりたる信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
とてあはれなりとて信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
まじりたる信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて

とてあはれなりとて信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
ふじりたる信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
師の役とて信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
しりたる信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
まじりたる信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
とてあはれなりとて信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
師とて親ることありとて信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
小やまじりたる信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
とてあはれなりとて信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて
まじりたる信よはあはれなりとて信よはあはれなりとて

ついでに



日本万国博覧会
第百一十号

〇五五

高橋権次郎

高橋権次郎

